

地域おこし協力隊活動報告書

活動団体	南九州市茶業振興会
役職	
氏名	窪 拓摩
着任日	令和3年2月1日

活動月	令和4年3月(着任1年2ヶ月)
主な活動	1. 新茶シーズン迫る！ SNS強化での情報発信強化 2. 外部企業との連携、ブランディングづくりの商談 3. 地域を超えた情報交流への注力、その他

1. 新茶シーズン迫る！ SNS強化での情報発信強化



写真: 萌芽調査開始！(穎娃にて3/4撮影)

新茶に向けた取組として、穎娃エリアを毎週巡回する『萌芽(ほうが)調査』を実施。昨年は、過去最速の新茶シーズンと言われるほど生育スピードが早く、初回の萌芽調査では昨年対比で10日ほど後ろにずれていましたが、回を重ねるごとに生育スピードが早くなり、1週間ほどの差となりました。現場が多忙となる時期に比例し、世間からの知覧茶 新茶に対する注目度も上がることから、SNSでの情報発信作業を、特に注力しています。

そして、立春から数えて八十八夜にあたる5月2日(月)に新茶オンラインイベントを開催することとなりまして、現在鹿児島県内はもちろんのこと、全国各地にいらっしゃるお茶好き(知覧茶好き)の方々に向けた告知をしております。

当イベントは本年2回目となりまして、企画から当日の配信作業までを茶業振興会で『自走』するイベントで進めています。

さらに、本年は昨年よりも配信内容をブラッシュアップし、知覧茶の産地南九州市と鹿児島県内のお茶産地である霧島市、志布志市を繋ぎ、広くは鹿児島茶の新茶情報を配信予定で、かく生産地との連絡をとって進行中です。



写真:『夏も近づく八十八夜 知覧茶 新茶お披露目会』告知

2. 外部企業との連携、ブランディングづくりの商談

当月も、とある企業との知覧茶ブランディングに向けた定期ミーティングを実施しています。取組企画の詳しい内容をお伝えしたいところですが、現在進行中にて未確定事項等が含まれているため、こちらは確定時に改めて報告いたします。

九州内の茶産地間で共有している情報を比較した際、お茶産業の産出額 / 工場数などは圧倒的でありながら、広報 / PRなどのブランディングにかかる費用、とりわけソフト事業でのお茶の展開が圧倒的に少ないのが南九州市です。これは笑い事ではなく、現実を把握し早急に対応すべきであると感じます。

3. 地域を超えた情報交流への注力、その他

新茶シーズンを目前に、SNS情報発信の効果が着実に見え始めています。当月中旬には、全国各地の茶産地を周りSNS発信などを精力的にされている『茶神888』さんが南九州市に入り、終日各エリアに同行しお茶の現状や今後について熱く共有しました。

ご出身は静岡県にて、表では『茶産地が協力し合って』『これからは日本茶全体を～』などといった目標を掲げつつも、現状日本国内の同じお茶消費者のシェア争いに注力をしていて、そもそもの市場拡大でのボトムアップがなされていないお茶業界の産地静岡県と鹿児島県。

国内の各茶産地の現状を知りつつ、かつ海外で活躍をされてた次期もあるということで、お茶に対する視点がローカルと異なり非常にフラットな思考と、何より行動に移す責任感があるポイントが、非常に心に刺さりました。

周りでは、山ほど綺麗な言葉だけがきこえ、大義名分の組織づくりがなされていますが、そんなことよりも責任を持って行動に移すキーパーソンが各地に必要なのではないかと強く感じ、私も日々動いているところです。

地域おこし協力隊活動報告書



写真:(左)茶神888(サジンハチジュウハチヤ)と大野岳に (右)twitterより



写真:穎娃町・番所鼻自然公園で開催のイベントにて

別件では、地元南九州市・穎娃町にある番所鼻自然公園で開催の『絶景ごはん』に出展しました。
詳細は、同協力隊員の原本さんが書かれておりますので、下記ご確認ください。

▼原本太郎さん活動報告書

https://www.city.minamikyushu.lg.jp/ijyu/teju/iju/senpai/kyoryokutai/documents/202203_haramoto.pdf

現在、毎月第2週日曜日に開催している『Agribits Farmers Market』読み方:アグリビッツ は、私が運営をメインに実施、毎月最終日曜日の『絶景ごはん』は、原本さんがメインで動かしております。

両イベントには、協力隊OGの岩崎さんも出店され、そこから新しい参加店舗が増えていったりと非常に活気ある取組が続いています。

以上、簡単ではございますが当月の報告といたします。